

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

北海道札幌市
持続可能な都市「環境首都・札幌」の実現

- 低炭素化を含め取組計画全体のバランスが取れており具体的、成果が期待される
- 北海道の政令指定都市のモデルとしてわかりやすい
- 家庭部門と業務部門で、総排出量の7割弱を占める札幌での取り組みは困難な挑戦であるだけに、期待するところ大。しかし、内容は、分散型エネルギー供給体制構築と、次世代エネルギーシステムの普及拡大による成果期待が相当部分を占めている。この二つの対策について、もう少し突っ込んだ分析と科学的評価が欲しい。
- 大都市における民生・交通中心の取り組みは魅力的、かつ先進的。ただ、実現性の確認やモニタリングが弱いのが難点である
- 参考資料ない初めてのケース（別に問題はない。見易い）。人口190万人。家庭、業務とも33%（合わせて66%、大きい）寒冷地特有のエネルギー消費大、運輸に依存。太陽光導入（日照時間が短い冬場対策は要検討）、新型路面電車の導入。コンパクトシティ構想。木質バイオマス、新型次世代住宅の普及。
- 地域エネルギー事業への期待は大きいが実現の体制づくりの進捗が不明である

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 民生を中心に07年比で20年までに25%削減、50年までに80%削減の目標設定

【先導性・モデル性】

- エネルギーネットワークのモデル事業の実現に大きく期待したい
- 北海道の政令指定都市としてひとりの提案はされている

【地域適応性】

- 札幌の地域特性を活かした提案となる部分は特に認めにくい

【実現可能性】

- 特段の推進体制の取り組みは見られないことと、面的な事業整備の実効性についての説明が不足している
- 連携についてはもう少し具体性があると良い

【持続性】

- エネルギーネットワークへの期待は大きいですが、実現の準備体制が疑問である

1 次評価（書面審査）結果

<定性意見>

北海道ニセコ町
国際環境リゾート都市・ニセコ スマートチャレンジ86

- 野心的かつ的を得た計画と思われる
- 人口 4,800 人の小さな町ながら、「小さな世界都市」を目指し、文字通り、地域特性を踏まえた構想が考えられている。地中熱ヒートポンプ、雪氷熱活用、小水力発電、チップ・ボイラー、木質ボイラーの活用（含む、蓄熱機能付加）、更には、地熱や風力発電開発構想など、地域の地理・気候資源をフルに活用しようという構想には、敬意を表したい。何とか一層の実現化が期待される。資金手当てについても、今後のエネルギー価格動向にもよるが、何らかの新しいシステム実現の構想がありうるように感ずる。金融関係者の知恵を借りてはどうか
- 低炭素化を含め、取組計画をもっと練りこむ必要がある
- 国際リゾート都市を標榜している割には国際社会、外国人環境客へのアピール力に乏しい印象。内容は必ずしも先進的ではない
- 装置導入に頼った計画となっている印象である
- 山林原野がほとんど、冷地農業に地熱を使って活性化、小さな観光都市と環境の連関が見えない
- ニセコ町ならではの言えるような説明に乏しい

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 民生部門での大幅な削減を計画している

【先導性・モデル性】

- 一般的な記述にとどまり、特徴を打ち出せていない
- 太陽光、LED、地中熱事業に頼っているような印象がつよい

【地域適応性】

- 農林業、観光業の連携した地域性のある計画である

【実現可能性】

- 施設導入が主となっており、実現可能性について担保されているかは判断できない

【持続性】

- 連携体制を含めて今後の体制づくりについて期待したい

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

茨城県つくば市
つくば環境スタイル” SMILe” ～みんなの知恵とテクノロジーで笑顔になる街～

- 低炭素化政策の取り組みの実績十分である
- 研究開発都市だけあって、排出の 52%が業務用（学校、研究施設など）という、都市型の代表的状況である。提案にある通り、特区構想は、実現可能性高いと見たい。評者としては、藻類バイオマスにも大きな魅力を感じる。
特別な実験区域であり、他に比べ有利な状況もあることから、その特徴を活かした取組に期待したい。
- 今後のさらなる展開に対する意欲も十分に汲み取ることができる
- バランスの良い提案になっている。国の研究機関を中心とした国主導の学術研究都市のモデルとしてわかりやすい
- 高い目標と要素技術の活用の意欲は評価したいが、都市に展開するメカニズムが欠如している
- CO2 排出 業務が半分、家庭 12% 運輸 20%、産業 12%、この点特異。スマートコミュニティ構想、研究学園としてのユニークさが希薄。言葉が踊っており、実質的にどれが軸になる政策か不明。面白いのは低炭素モデル街である
- 2050 年の目標設定をしなかったのはなぜか

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 業務、研究部門での大幅な削減、交通、家計での削減目標は高く設定されている

【先導性・モデル性】

- 漏れなくバランスの良い提案になっている
- 最先端技術を活用する業務研究部門の 76 万 t 削減、交通部門の 26 万 t 削減についての根拠が不明

【地域適応性】

- 総合特区等の藻類バイオマス、ナノテクが地域に展開していくプロセスが提示されていない

【実現可能性】

- 官民・研究所の連携はできているが面的な広がりが見えにくい

【持続性】

- 先進技術の研究が地域展開することの仕組みが必要である

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

埼玉県さいたま市
次世代型省・創・蓄スマートエネルギーモデル都市

- スマート都市としては最も良い計画である印象が強い
- モデル性、実現可能性などの面で、一層の工夫が期待される
- 経済・社会システムの構築は先進的、具体が進みそうならモデルになる
- スマートシティにやや偏っている印象はあるがわかりやすいモデルである
- 家庭26%、業務31%、運輸23%、この三分野を重点とすると自覚。スマートコミュニティ、スマートエネルギーなど政策は通例を出ない
- 計画書が平板で、取組の中身が具体性に欠ける
- 大都市、全方位型として意欲的。補助による誘導に力点が置かれているが財源措置の検討が不明確である
- ここは、関東北部の大都市。そんな地理的状況もあってか、中央を見過ぎているように感ずる。あえて言えば、独自性に欠けるように感ずる

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 民生、運輸を中心に高い目標が設定されている

【先導性・モデル性】

- スマートエネルギーに重点がある。もう少し総合的な提案があると良い
- 都市型、全面展開型のモデルとして評価できる
- 地域エネルギーネットワーク、モビリティシステム、モデル拠点事業など先導性を評価したい

【地域適応性】

- 総合特区の取り組みの地域展開などの検討を期待したい

【実現可能性】

- さらなる関係者間の連携を期待する
- 町内外の推進体制、ビジネスモデルの構築、ファンド設立など実現の準備ができています

【持続性】

- 持続的な展開が期待される枠組みができています

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

東京都世田谷区
【自然の恵みを活かして小さなエネルギーで豊かに暮らすまち 世田谷】

- 都心部のモデルとしてふさわしい
- 都市郊外型とでも言える地域で、民生部門からの排出が多い。それに着目し、この部門の排出削減に特に力点を置くという点は、評価できる。内容の空家の活用、住宅リノベーションも、正解だと評価する。地域関連会も是非、実現して欲しい。自然エネルギー活用に、改めて、民間主導を謳っているのは、評価したい
- 東京の特別区としての特徴を生かした取組が期待される
- よりモデル性の高い提案が期待される
- 人口 86 万。住宅地多いので民生家庭部門 4 割排出。ここの大幅減を目指すと言。エコ化へのリノベーション政策以外に目立ったものがあるかよくわからない
- アクションと中期目標にかなり乖離があり、ロードマップなどが不明確である
- 地域の社会ポテンシャルを生かす提案が不十分である
- 計画内容が平板で、具体性に欠ける

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 2009 年比で 20 年までに 10%削減、50 年までに 60-80%削減を掲げている

【先導性・モデル性】

- 都心部の取り組みとしてふさわしい
- 環境配慮型住宅リノベーション、ライフスタイル転換が中期的削減の中心であるが、その具体的な検討が不明である

【地域適応性】

- 大都市住宅集積地区のモデルとしての提案となることを期待したいが、住民力の活用等についての検討が必要である

【実現可能性】

- これまでの連携実績がある
- 推進組織の形成については今後の課題である

【持続性】

- 市民ネットワーク等による事業展開を期待したい

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

新潟県新潟市

「田園型環境都市にいがた」～地域が育む豊かな価値が循環するまち～

- 取組が多面的でバランスが取れている
- 過去の実績も十分で成果が期待される
- 農業分野の取り組みは先進的かつ日本に必要である
- 田園環境についての提案は評価されるが、事業間の連携を期待したい
- 都市部と農村部を包含する上越の県庁所在都市のモデルとしてわかりやすいが、もう少し踏み込んだ提案がほしい
- 達成への道筋が不明確。先進性に乏しい。モニタリング(PDCA)が不明確である
- バランスよくできた構想だが、今ひとつ、パンチ力と熱っぽさを感じない。
平均的優等生の論文のように感ずる
- 人口81万、運輸(29%)・家庭(23%)が多い。産業19%、業務19%。BRTなど公共交通、地域分散エネルギーシステム。具体的な取組として、農業系バイオマス、エコドライブ、CASBEE新潟採用などあるが、どこでも提案している以上のものはない

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 削減目標の30年までに40%、50年までに80%は評価されるが、スマートエネルギーに依存した目標となっている

【先導性・モデル性】

- スマートエネルギーを中心とした一通りの提案にはなっている
- 都市型BRT事業に多少の先進性あり
- 農業系のバイオマス、田園空間改善は評価されるもののその削減は限定的であり、SECについては太陽光発電の設置が主となりモデル性はない

【地域適応性】

- 都市部と農村部を包含する県庁所在都市のモデルになっている
- 田園環境の活用に重点を置くことは期待されるが、都市部については面的な対策が少ない

【実現可能性】

- 連携についてはもう少し具体性があると良い
- 行政の協議会、大学運協議会、市民会議などの素地はある

【持続性】

- 事業間が相互にスパイラルアップしていく構造を示していただきたい

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

岐阜県御嵩町
地域資源（森林、公共交通、再生可能エネルギー等）を活かした 低炭素コミュニティ「みたけ」の実現

- 人口 1 万 9 千人の木曾・飛騨。町の面積の 6 割が森林という特性を持つ当町が信託方式などにより、CO₂ 吸収源として活用しようとしていることは、大いに評価できる。ただ、木質バイオマスなどの活用に、まだまだ余地があるように見えるし、そうしたことに関する専門家や産業界からのアドバイスなども受けられると良いと期待する
- 良い取り組みがありそうだが、具体がよくわからない
- もう少し内容を具体的にして、地域の特徴などを生かした提案が期待される
- すでに採択されている下川町、栲原町と並ぶ中部地方の山間部のモデルとしてはふさわしい
- 着実な計画ではあるが、都市づくり、都市更新と組み合わせる先進性を持つこともできる印象
- 人口二万人の小さい地域。二つの問題（産廃、廃鉱）があるなか、全国初の災害時電力融通制度のソーラーパネル設置補助制度、鉄道の財政支援、森林のCO₂ 吸収率低下、ソーラーパネル設置 7 0 0 件とあるが、どれが中心的な目玉政策かわかりにくい。産業のCO₂ が増えている具体策はカーボンオフセット方式の企業の森や森林信託制度か。
- 平均的であり、先端制・新規性に乏しい印象。実施プログラムが明確でない

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 2050 年まで 2009 年比 35%削減という目標設定

【先導性・モデル性】

- 山間部の特徴を考えたひとりの提案がされている
- 森林再生、事業化などについては先導性のある取り組みと期待できる。交通については電動アシストサイクルと予約バス以外の検討がどうか

【地域適応性】

- 地域資源を活用する計画となっている

【実現可能性】

- 控えめな目標ではあるが実現性のある取り組みが検討されている。交通部門等でのまちづくりなど面的な取り組みの検討も期待したい

【持続性】

- 大学連携、産官民連携などの準備ができています

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

滋賀県守山市

市民・企業・行政の「わ（和・輪）」で実現！エコを楽しむ環境先端都市守山 ～「我慢するエコ」から「楽しむエコ」へ～

- 市民を巻き込む計画は評価されるが、交通分野の低炭素化に重点を置きすぎている印象。取組のバランスに配慮することが期待される
- 自治会加入率 95%を活かすことはできないか
- 削減計画の中身が具体的でない
- モデル性が見えにくい
- BTS の概念は面白いが、自転車空間やネットワークが必ずしも明らかでなく、効果のほどが定かではない
- 地域づくりで低炭素を実現する計画が欠如している
- 排出の 43%を占める、産業部門についての計画（2030 年▲25%、2050 年▲50%）がよくわからない。難しいところと承知して、意見を付せば、産業界の巻き込み方をもっとしっかりと行うあるいは、計画する必要があると考える。
もう少しメリハリ、あるいは、優先順位なり、重点志向なりが欲しい。総花的と言わざるを得ないのが残念である
- 自治会参加率 95%が地域意識の高さ・尺度と言えるものだろうか。産業と交通部門の CO2 の排出が多いというほど守山市は都会なのだろうか。公共交通と自転車利用を中心とはアイデア不足である。民生、業務の CO2 排出は特に卓越していない。ソーラーパネル設置に全国初の固定資産税減免措置を導入する意味が不明確である。クルマ社会を改善したい。コンパクトシティ構想。

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 最も大きな削減は多雨要綱発電施設の設置によるものであり、大幅な削減とは言えないのではないか。最も割合の大きい産業部門についての検討がない

【先導性・モデル性】

- 一般的な記述にとどまり、特徴を打ち出せていない
- Bicycle Transit Station 以外に先導的な事業はない

【地域適応性】

- 地域の立地特性、環境資源を生かした計画であるが低炭素につながっていない

【実現可能性】

- 行政の研究会以外の取り組みの仕組みが見えにくい

【持続性】

- 事業が発展する仕組みは認められない

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

兵庫県神戸市
神戸市環境モデル都市

- 行政の取り組みの実績が豊富で全国のモデルになりえる
- 産業界、市民の低炭素化に向けた参加も積極的で実現性は高い
- モニタリング・PDCA に重点。産官民のバランスがよい。市民力による裏打ちがある
- 個別事業と面的な取り組みへの展開の仕組み、事業評価目標設定など高いモデル性を持つ計画であることを高く評価したい
- 人口 154 万人の神戸。資料を見れば、既に、1972 年から「人間環境都市宣言」をして、独自の取り組みをして来ているようである。“都市空間そのものを低炭素化する” という視点に大いに共感する。地元企業との共同した取り組みも既にあり、施策は、的確に絞られているように思う。特に、下水バイオガス利用については、すでに行われているものだけに、更なる拡張など興味深いところだ。構想計画に加え、PDCA を回すというフォローアップが考えられているところ、そして、それが実現可能性高くみえるところは、優れた点であろう。また、国際都市だけに、諸外国への貢献にまで触れられているところは、実現可能性は、なかなか難しかろうと思うものの、大いに期待したい。
観光名所の六甲山についても、森林整備戦略が考えられていて、大いに期待したい。
- 市役所主導型、市民の高い環境意識をさらに展開する取り組みはできないか
- 家庭部門 16%、業務 18%、運輸 20%、産業 43%。下水消化ガスを用いたバイオガスは特徴的である。政令指定都市で家庭排出 CO₂ 一人あたり最低。家庭・業務対策についての説明が乏しい。ポートアイランドなどの大型施設のエネルギー政策が多く、民生部門一つ一つの具体策が見えない。産業対策として神戸製鋼の火力発電所や再生エネルギーなど、都市ガス対策が民生用と思われる

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 総量削減に加えて、効率指標を加えて意欲的な目標設定がなされている

【先導性・モデル性】

- エネルギー、交通、土地利用、水と緑などそれぞれが先導的な取り組みが含まれており、モデル事業地区を設定しているモデル性も高く評価したい 戦略ゾーニングの理念は極めて先導的である

【地域適応性】

- 地域の社会資本、環境資本を活用する計画となっている

【実現可能性】

- 推進体制とフォローアップ体制を組み合わせる仕組みが構築されている

【持続性】

- 事業準備、取組体制、計画の妥当性を含めた持続性を期待したい

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

兵庫県尼崎市

「ECO 未来都市あまがさき」へのチャレンジ

- グリーンイノベーションによる低炭素化の視点は評価される。また、グリーンプロダクションの実績も評価される
- 産業と環境との両立を打ち出しているのはよいモデルになりそう
- 産業集積を生かしつつ低炭素化を実現する中核都市としての取り組みに期待したいが、産業部門で大幅な削減を担保する論理が見えにくい
- グリーン・ニューディール運動、エコプロダクツ推進、工業都市尼崎のイメージチェンジを図る、産業部門のCO2 多い（環境金融支援等）。民生部門に関してはスマートマンション構想と住宅のエコ化補助
- 人口 45 万人。気鋭の女性市長の主導の下、新しい街づくりに取り組んでいる同市の取組に大いに期待したい。GHG 排出量の過半を占める産業用部門における、革新的取り組みがなくては、大幅削減は難しいと思われる。一方、雇用、税金などを考えれば、あまりに性急な削減要求は現実的ではない。
したがって、課題は、同市の産業構造転換にもつながる、産業活動の低炭素化が、取り組みの基軸にならざるを得ないのではないだろうか。中小零細工場も含めた産業界との連携、協働が鍵を握ると思われる。その意味で、現市長他市行政の皆さんの取り組みに大いに期待したい。
また、森構想による森・水・人共生の環境創造についても、大いに応援したい
- 一般的なキーワードが並んでいるだけで尼崎市ならではのといえるような説明に乏しい
- 産業部門への言及が少ない印象。良くも悪くも平均的で特徴的ではない。先進性に乏しい印象がつよい

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 市排出量の半分以上を占める産業についての意欲的な取り組みに期待したい

【先導性・モデル性】

- 一般的な記述にとどまり、特徴を打ち出せていない
- 尼崎グリーンニューディールなどの仕組み作りは興味深いのが、産業部門での計画は先導的には見えない

【地域適応性】

- これまでの環境都市の取り組みを含む地域適性のある計画である印象がつよい

【実現可能性】

- 具体的説明が少ない
- 推進体制の整備、これまでの取り組みなどで実現性を期待したい

【持続性】

- AGND などの取り組みが地域経済の活力につながることのメカニズムが必要である

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

奈良県生駒市

日本一環境に優しく住みやすいまち「いこま」

～市民力を最大限活かして築く低炭素型住宅都市の新たなスタンダード～

- 新規性もありよいモデルとなりうる
- ベッドタウンモデルとして先進的であり、かつこれまでの実績などから期待できる
- 現状での計画は装置導入が主であるが、市民参加型の仕組みによるダイナミックな計画推進も期待できそう
- 人口11万7千人、E c o n e t 生駒でネットワーク中心、市民参加型モデル、CO2 的には民生業務が多い67%（内家庭41%、業務26%、運輸20%、産業10%）、民生を減らす具体策不明（エコ給湯など、暖冷房削減策など）但し、ソーラーパネル導入、バイオマスエネルギーの導入など考えている
- 大阪のベッドタウン：生駒市は、排出の68%弱が民生部門からのものである。
その意味で、日本全体として、民生部門からの排出削減への期待が大きいだけに、モデルとしての地域特性の資格は十分。一見しての印象は、現在の日本政府の方針（太陽光発電などの場合には、設備容量だけが強調され、どのくらいの発電量があるかに関して鮮明な説明に欠ける。結果として、高いものについているのではなかろうか）に強く引っ張られ過ぎではないかと感ずる。その代表事例が、太陽光発電で、これへの期待が極めて大きく、今後も更なる強化を図ろうとしている。当地で既に相当に実施されているため、その実績について、係数的に現実的評価をしてほしい。具体的には太陽光発電について、その発電能力 (KW) での表示はあるが、どのくらいの発電量（エネルギー量＝CO2 排出削減量）だったのか、その発電量単価はどのくらいだったのか。政府や評論家の言葉をただ受け止めるのではなく現場からの評価がほしい
- 計画が具体性に欠ける。モデル性が見えにくい

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 装置導入が主となり意欲的な設定はないように見える

【先導性・モデル性】

- 一般的な記述にとどまり、特徴を打ち出せていない
- ベッドタウンモデルとして評価できる
- 太陽光発電等の装置導入が主の計画である

【地域適応性】

- 生駒市ならでの取り組みが限定的である

【実現可能性】

- 提案された事業の実現性はあるものと思われる

【持続性】

- 市民力をベースとした取り組みが強調されているものの・・・
- 市民参加型の取り組みに期待したい

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

鳥取県鳥取市
「快適・環境都市 鳥取」の実現による CO2 削減計画

- スマートグリッドタウンを中心にした計画に、モデル性、具体性、高い実現可能性が認められる
- 雇用創造を強く位置づけていることはモデルになる
- 2010 年比 20 年までに 25%削減、50 年までに 80%削減を再生エネルギー、スマートグリッド、植物工場で計画
- スマートグリッドタウンを中核とする総合的な取り組みの拡大を期待したい。
- 平均的優等生による構想。中には、空き店舗などを、植物工場にするという極めて興味ある考えが構想にあることは、評価したい。試作段階のようだが、白炭を電極用材料とするという構想も、興味を惹かれる。
- 人口 19 万 7 千人。コンパクトタウンへの改変を目指している。リチウム電池、LED 電球、EV バイクなど山陰一の産業集積地。スマートグリッドで世界に出るとのことだが実現性に疑問。公共交通重視と EV カーシェアリングも構想。植物工場の発想は、思っていたより構想力あり。
- 多少の地域特色はあるが、方針は平均的である。また実現へ向けてのロードマップも弱い。

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 2010 年比 20 年までに 25%削減、50 年までに 80%削減を再生エネルギー、スマートグリッド、植物工場で計画

【先導性・モデル性】

- スマートグリッドによる削減実現のプロセスが不明で、市民・事業者の活動促進に頼る提案となっている
- スマートグリッドに特化した提案。もう少し総合的な取り組みがあると良い

【地域適応性】

- まちづくりについての具体的な検討はあるが目標達成とリンクしていない

【実現可能性】

- 全般的に提案の詰めが甘い。
- 実現への道があまり明確でない。
- スマートグリッドタウン協議会などの連携体制は整備されている

【持続性】

- スマートグリッドタウンを中核とする EV 自然エネルギー、市民活動をリンクする仕組みによる発展性を期待したい。

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

岡山県西粟倉村

「上質な田舎」を目指した、低炭素モデル社会の創造

- 小さな自治体から発信としてのモデル性が高く評価される。
- 極めて率直な表現と姿勢で作られた構想と評価。「村の生き残りを模索してきた」という文言には、感銘を受ける。

村の95%が森林、おそらく小さなマイカーでの日常の移動など、村人の皆さんの生活が感じられる。百年の森構想も小さな村ながら、大きな構想だと評価したい。村内の森林管理、製材業など特徴ある地域産業であり、期待したい。再生可能エネルギーも小水力発電や木質バイオマスなど、地についた構想と言える。浮ついたところがなく、上質な田舎を目指すというキャッチフレーズが素直に受け止められる。
- より大きな都市との連携の姿勢も高く評価される。
- 小さな自治体として、林業を中心にした低炭素化計画がよく練られている。
- 人口1500人。兵庫県と鳥取県の県境の山村。100年の森林事業。マイクロ水力発電、森林管理の高度化。カーボンオフセット。バイオマスボイラー、太陽光パネルも導入している。きちんと低炭素数を計測している。
- 上質な田舎というキャッチコピーや森林モデルとして優れてはいる。しかし、ビジネスモデルが未確立で課題が残る
- 森林・林業の取組として、先進的な実績あり、着実に数字を作っていくことがモデルになる
- 人口1500人の山間部の村の提案としては評価できる。
- 森林を活用する先導的な提案となっているが、実現性を担保する説明が必要である

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 2020年までに25%削減、50年までに40%削減の目標だが、長期的な森林吸収力回復の検討はないのであろうか。

【先導性・モデル性】

- 山間部の小さな村としての一通りの提案がされている
- ICTを活用する森林管理、カーボンオフセット、他都市との連携などの先導性がある提案

【地域適応性】

- 山間部の特徴を考えたひとりの提案がされている
- 「上質な田舎」というコンセプトは高く評価できる。
- 森林資源など地域性を活かした提案となっている

【実現可能性】

- 組織体制づくりについてはこれからの課題であり、県の森林研究所の主導であることがどれだけ実現につながるかの説明が必要である

【持続性】

- 実現性が担保されれば発展性は期待したい

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

愛媛県松山市

環境と経済の両立を目指して「誇れる環境モデル都市まつやま」

- 太陽エネルギー利用の先駆的取組は評価される
- しかし太陽エネルギー以外の計画が手薄で、計画のバランスがよくない
- 四国の県庁所在都市のモデルとしてわかりやすい
- 地域特色は出ている。モニタリングPDCAが不明である
- 構想段階から具体的な事業を担保する説明が必要
- スマートコミュニティ（エネルギー循環）、コンパクトシティ（市電などで成功しているといわれている）、松山サンシャインプロジェクト（太陽光パネル、住宅オフィス対策）、地域循環システム（古着回収、資源ごみの効率回収）、全体的にまとまっている

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 全体目標とこのアクションの関係が不明である
- 1990年比で20年までに18%削減、50年までに60-80%削減の目標を設定

【先導性・モデル性】

- コンパクト、スマート、観光文化として先導性・モデル性がある
- 全体目標とこのアクションの関係が不明である
- 近隣住宅群でのスマートコミュニティに期待したいが、それ以外は太陽光発電による削減が大きい

【地域適応性】

- 道後温泉の活用など地域資源を生かす取り組みに期待したい

【実現可能性】

- 市役所内の組織以外についてはこれからの体制づくりである印象が強い

【持続性】

- スマートコミュニティについての実現性を担保する説明が不足している

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

長崎県長崎市

つながる！学ぶ！市民力！ 持続可能な国際平和文化都市・ながさき

- 市民と産業界が連携した取り組みに成果が期待される
- 大量生産、大量消費からの脱却を目指す低炭素化の方向は評価される
- 平均的だが、よくまとまっている。地域特色の活用など評価できる
- 運輸 29%、家庭 16%、業務 29%、産業 14%。運輸と業務が多い。コンパクトシティ発想パークアンドライド（長崎本線）、市電を利用した歩く町構想。市電の改善、バスの低床化など。市民エコファンド構想が目新しい（再生可能エネルギーの導入のため）
- 長崎の産業部門で、90年比約5割の排出量減少とあるが、これは、どこかの大きな工場が長崎からなくなったことによるのだろうか、あるいは、製造品が転換された結果なのだろうか。興味あるところである。
長崎大学など地元大学との関係が、研究成果を社会貢献、地域貢献に活かすとされているが、こうした成果を大学（国立大学法人）と協働し、新たなビジネスにつなげるといった考えもあって欲しい。長崎の構想も、平均的優等生の作品という印象を持つ。悪くないが、ダントツに良いという感じでもない
- 九州の県庁所在都市のモデルとしてわかりやすいが北九州市のような積極的な提案がない
- 先進性は特にないか、具体がわからない
- 市民ファンドによる太陽光エネルギーの期待はあるが、まちづくりについてはどの程度実効性があるかが不明である

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 2007年比で30年43%削減、50年80%の削減目標をライフスタイル、交通、エネルギーで達成する計画

【先導性・モデル性】

- 県庁所在都市としてのひとりの提案がされている
- 集約型コンパクト都市構造は開発許可の制御等でどの程度実効性があるかが不明。市民ファンドを活用する再生エネルギーに期待したい

【地域適応性】

- 観光文化として
- 地域の特性や、活動の蓄積を活かす提案となっている

【実現可能性】

- 長崎エコタウンネットワークや推進会議などの体制は整っているが実効性のある政策とする担保が不明である

【持続性】

- 国際観光都市としての求心性のあるモデル都市として発展することを期待したい

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

熊本県熊本市

自然と共生する低炭素都市くまもとの実現を目指して

- 県庁所在都市としてひと通りの提案はされている
- 市民向けの取り組みが多様に考えられており、モデルになり得る
- 着実に努力と実践を積み重ねてきた成果が、特に実行力に結実していて、期待が持てる。水の活用への言及が少ないことが、地域性や特色から見て惜しい
- ともすると総花的になりがちな計画に、分かりやすいメリハリをつけて、良い提案にまとまっていると評価する
- 業務部門の CO2 排出大きいのは認識しているが、その焦点に当てた方策が見当たらない。ライトレールなど、一般的な対策が多い
- 水、緑、太陽などの地域資源の活用を標榜しているが、これらをどのように低炭素化対策に活用するのかが、具体的に示されていない

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

—

【先導性・モデル性】

- 県庁所在都市としてひと通りの提案はされている

【地域適応性】

- 水への言及が少ない印象がつよい

【実現可能性】

—

【持続性】

—

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

熊本県小国町
”小さな国” おぐに国民総参加型「ちょうどいい」エコタウン構想

- 人口 8 千人、阿蘇火山帯の小さな町、小国町は、森林と温泉熱に恵まれたところのようで、極めて興味ある取り組みを進めようとしている。地熱乾燥炉、材木のカーボンニュートラル評価による証明書の発行等は、既に行われているようだし、北海道下川町との連携も考えられているようで、地に足のついた計画のように見える。地熱などの再生可能エネルギーや森林整備などによる排出吸収効果等の評価を進めると、あるいは、全くのカーボンフリー地域構想さえ可能になるようにも思う。期待するところ大である
- すでに採択されている下川町、梶原町と並ぶ九州の中山間地域のモデルとしてふさわしい
- 多様なエネルギー資源の活用が魅力的。またこれまでのコミュニティビジネスの実績も評価できる
- 木質資源を中核とするモデル性のある提案を評価したい
- 小規模自治体で努力している姿勢は認められる。しかし低炭素化を含め取組計画を一層具体的にすることの必要がある
- 人口減、1 万人から現在 8 8 0 0 人規模に。中山間地域の小規模市町村のモデルになろうと意気込みは良い。カーボンクレジット、EV 交通タウンを目指す意気込みが良い。ただし、その具体的な中身がよくわからない。民生部門の重要性はあるが、地熱乾燥炉やソーラーパネル設置など提案しているが予算などどうなるのか

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 森林拡大、バイオマス利用、EV 普及での高い目標が設定されている

【先導性・モデル性】

- 九州の山間部の小さな町の取り組みとして先導性・モデル性がある
- 森林カーボンニュートラル、森林クレジットなどを活用する森林管理、森林再生の仕組みと木材、バイオマス利用は先導的である

【地域適応性】

- 山間部の特徴を考えた優れた提案がされている
- 地域の環境資源を活用する提案となっている

【実現可能性】

- 市民参加型の提案となっている
- 行政主導の印象があるが、モデル事業の取り組みを通じた体制作りができています

【持続性】

- 周辺地域と連携する木材プロダクト消費チェーン、エネルギー連携を期待したい

1 次評価（書面審査）結果

< 定性意見 >

鹿児島県薩摩川内市
エネルギーのまちの資源を活かした住み方・働き方モデルづくり

- 低炭素化の全体計画が具体的である
- 地域全体に対する低炭素化の計画がバランスよく計画されている
- 産業界との連携した取り組みが評価される
- 削減計画が具体的、地域全体に対する対策がバランスよく計画されている
- 産業界との連携が評価される
- 九州における 10 万人規模のモデルとしてふさわしい
- 地域をヤマ・サト・マチ・ハマ・シマと呼称し、それぞれの特性を活かしつつ、取り組むことは、選択と競争という原則機能が働こうかと興味がそそられる。地元企業も多様でこれらの能力も引き出すことが出来れば、かなりの成果が期待できるのではなかろうかと考える。「エコアイランド」構想も面白い。個人的には特に、バイオマスの活用に注目したい。
各地域レベルでの審議会や委員会による検討は、中央での審議会が、議論だけ、理念だけであるのに対し、足に地が付くと言う点で、今後の進展に注目したい。
- 原子力発電（90 万キロ級 2 基）、火力（50 万キロ 2 基）、甕島（こしきじま）風力などエネルギー集中都市。その割には提案書焦点定まらず。民生部門の集中的対応明確でない
- 広い市域と多様な地域性が十分には反映されておらず、実際的ではないという印象が強い
- 具体性やサポート体制など実現性が困難では
- エネルギー施設と産業施設が、バイオマス等と連携する可能性が期待されるものの、検討の具体性が欠ける印象

■評価基準別コメント

【温室効果ガスの大幅な削減】

- 分散型エネルギー技術を組み合わせるバランスの良い提案ではあるが、先駆的な取り組みとするだけのネットワーク性についての説明が必要である

【先導性・モデル性】

- 産業系の割合の高い都市であり、大きな取組ポテンシャルが期待されるが、排熱利用等についてまだ検討が始まっていない

【地域適応性】

- 市街地だけでなく島嶼部、沿岸部、農村部、山間部を含みそれぞれに適した再生可能エネルギー利用を推進
- 自然エネルギーと産業集積を生かす提案が期待される

【実現可能性】

- 企業間の連携は始まっており、実現性の高い計画検討が可能になることが期待される

【持続性】

- 計画の検討体制は整いつつあるものの、計画推進体制の構築はこれからの課題となる印象